| 科目ナンバリング | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名<br><英訳> | 西洋史Ⅰ<br>Western History I | | 担当者所属<br>職名・氏名 | 非常勤講師 本田　毅彦 | |
| 群 | 人文・社会科学科目群 | 分野(分類) | 歴史・文明(基礎) | 使用言語 | 日本語 |
| 旧群 | A群 | 単位数 | 2単位 | 週コマ数 | 1コマ | 授業形態 | 講義（対面授業科目） |
| 開講年度・開講期 | 2024・前期 | 曜時限 | 火5 | 配当学年 | 全回生 | 対象学生 | 全学向 |

**[授業の概要・目的]**

テーマ：西洋近代史に関わる諸テーマの通観
まず、総論として、西洋において近代歴史学が成立した過程を説明し、その近代歴史学と深い関係を有していた、国民国家という理念の興亡のプロセスを通観します。ついで、そうした近代歴史学、国民国家という理念を克服しようとした（しようとする）企てとして、世界システム論、グローバル・ヒストリー論について説明します。
各論では、18世紀から21世紀初頭までの西洋史上の主要なテーマについて、それぞれの時代の政治・経済・社会・思想上の変化に目配りをしながら、分析していきます。

**[到達目標]**

18世紀以降の西洋史に関する基礎的知識を確認しながら、現在の西洋史学界での研究状況を踏まえ、より深く多面的な形で歴史についての関心を持ってもらうことを目指します。

**[授業計画と内容]**

基本的に以下の計画に従って講義を進めます。ただし、講義の進み具合などに応じて、順序や同一テーマの回数を変えることがあります。
第1回　授業内容について、ガイダンスを行う
（総論）
第2回　西洋社会において「近代歴史学」が成立した経緯について、検討する。
第3回　西洋の近代歴史学における「歴史哲学」について、検討する。
第3回　「国民国家の歴史」を概観する。
第4回　イマニュエル・ウォーラーステインの「世界システム論」について、検討する。
第5回　「グローバル・ヒストリー」の可能性について、検討する
（各論）
第6回　「啓蒙のプロジェクト」「農業社会から工業社会への移行」について、検討する。
第7回　「英仏の植民地獲得競争」について、検討する。
第8回　「国民国家の胎動」について、検討する。
第9回　「国民国家モデルに夢を賭ける―イタリア・ドイツの場合」について、検討する
第10回　「アメリカ合衆国の高度成長」「多民族帝国の野望と憂鬱―オーストリア・ロシアの場合」について、検討する。
第11回　「ヨーロッパ諸国民国家のカルテル的世界支配」について、検討する。
第12回　「ヨーロッパの自己破壊としての第一次世界大戦」について、検討する。
第13回　「続発した国民国家のハイジャック」について、検討する。
第14回　「米ソによるカルテル的世界支配としての冷戦」「西洋の黄昏」について、検討する。
（試験）
第15回　学期末試験を行う。

西洋史Ⅰ(2)へ続く↓↓↓

**西洋史Ⅰ(2)**

**[履修要件]**

**高等学校で世界史を履修していることが望ましいです。**

**[成績評価の方法・観点]**

**以下の割合で、成績を評価します。レポートの成績（40%）、学期末試験の成績（40%）、平常点（20%）。**
**レポートは、学期の半ば頃に提出してもらいます。**
**毎回、出席状況を確認し、平常点の基礎にします。**

**[教科書]**

**使用しない**

**[参考書等]**

**（参考書）**
**小山哲他 『大学で学ぶ西洋史[近現代]』（ミネルヴァ書房）**ISBN:9784623059386

**[授業外学修（予習・復習）等]**

**授業中に使用する資料を、順次、**KULASIS**に掲示しますので、予習・復習のために活用してください。**

**[その他（オフィスアワー等）]**